

富山大学学報

(題字 瀧澤 弘 学長)

第451号
(平成14年 7月号)

7月のトピックス

◇ 総合研究棟が竣工



◇ 31日 平成14年度第1回富山大学運営諮問会議を開催



目 次

関 係 法 令	3
学 内 規 則	
◆ 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の改正	3
◆ 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用の改正	4
◆ 富山大学公開授業実施要項の制定	5
諸 会 議	6
学 事	
◆ 再編・統合⑬	8
◆ 本年度10月から525科目の授業を一般公開	9
◆ 平成14年度第1回富山大学運営諮問会議を開催	10
◆ 平成14年度文部科学省海外研究開発動向調査派遣者の決定	10
◆ 平成14年度後期公開講座の実施計画を決定	11
人 事 異 動	13
学 内 諸 報	
◆ 経済学部長の改選	14
◆ 総合研究棟が竣工	15
◆ 留学生が七夕を飾る	15
◆ 理学部で大学評価に関する懇話会を開催	15
◆ 理学部2号館改修工事に伴う絵画の移設	16
◆ 高等学校の進路指導担当教諭との懇談会を開催	16
◆ 理学部で「夢化学-21」を開催	17
◆ 学校図書館司書教諭講習会を開催	17
◆ 海外渡航者	18
主 要 行 事	21
総合研究棟の特徴	24

関 係 法 令

- (法 律)
- 公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律の一部を改正する法律 (91) (平成14. 7. 26官報号外第159号)
- (政 令)
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令 (242) (平成14. 7. 1 官報第3393号)
- 日本育英会施行令の一部を改正する政令 (249) (平成14. 7. 5 官報第3397号)
- (省 令)
- 理科教育のための設備の基準に関する細目を定める省令の一部を改正する省令 (文部科学33) (平成14. 7. 3 官報第3395号)
- 日本育英会の第二種学資金の特例的な利率を定める方法に関する省令 (同34) (平成14. 7. 9 官報第3399号)
- (規 則)
- 人事院規則10-5 (職員の放射線障害の防止) の一部を改正する人事院規則 (人事院10-5-3) (平成14. 7. 26官報第3412号)
- 人事院規則1-4 (現行の法律, 命令及び規則の廃止) の一部を改正する人事院規則 (人事院1-4-18) (平成14. 7. 31官報第3415号)

学 内 規 則

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の改正

富山大学法セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の改正理由

- 1 セクシュアル・ハラスメント等対応委員会の構成員の見直しを行い, 運営の円滑化を図る。
- 2 迅速な対応を行うため, 副委員長を設置する。
- 3 その他所要事項を整理する。

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の一部を改正する指針を次のとおり制定する。

平成14年 7 月19日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の一部を改正する指針

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針 (平成11年 7 月16日制定) の一部を次のように改正する。

第 1 条中「適切かつ迅速な対応を求める権利を保障するための」を「適切かつ迅速な対応をとるための」に改める。

第 4 条第 2 項第 1 号及び第 2 号を次のように改める。

- (1) 各学部の教員 2 人
- (2) 保健管理センターの教員 1 人

第 4 条第 4 項を次のように改める。

- 4 委員会に委員長及び副委員長を置き, 委員長は委員の互選とし, 副委員長は, 委員のうちから委員長が指名する。

第 4 条中第 7 項を第 8 項とし, 第 6 項を第 7 項とし, 第 5 項に次のただし書きを加え, 同項を第 6 項とする。
ただし, 委員長に事故あるときは, 副委員長がその職

務を代行する。

第4条第4項の次に次の1項を加える。

- 5 委員長及び副委員長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合、後任の委員長及び副委員長の任期は、前任者の残任期間とする。

第6条第6項中「委員以外の者の出席を求めることができる」を「委員以外の者（学外者を含む。）を調査委員会に委員として加えることができる」に改める。

附 則

- 1 この指針は、平成14年7月19日から実施する。
- 2 この指針実施の際、現に委員長である者は、この指針により選出されたものとみなし、任期は第4条第5項の規定にかかわらず、平成14年9月30日までとする。
- 3 この指針実施後、最初に選出された副委員長の任期は、第4条第5項の規定にかかわらず、平成14年9月30日までとする。

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用の改正

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用についての改正理由

- 1 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の改正に伴い、所要の改正を行う。
- 2 迅速な対応を行うため、所要の改正を行う。

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用についての一部を改正する運用についてを次のとおり制定する。

平成14年7月19日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用についての一部改正について

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用について（平成11年7月16日制定）の一部を次のように改正する。

第1条関係第5項中「適切かつ迅速な対応を求める権利を保障するための」を「適切かつ迅速な対応をとるための」に改める。

第3条第1項関係第5項に後段として次のように加える。

また、事実関係について当事者間に争いがない場合又は被害が軽微な場合には、複数の委員の同意と被害者の了解を得たうえで、委員会の事後承諾を条件として、委員長との相談で対応を検討することができるものとする。

第3条第2項関係を次のように改める。

第2項関係

- 1 委員長は、特別の事情がある場合を除き相談員と

はしない。

- 2 「必要な研修」は、委員会において企画することとする。

第4条に次の1項を加える。

第2項第1号関係

各学部の教員2人は、原則として男性女性各1人とする。ただし、女性教員が5人以内の場合は、この限りではない。

第5条第3号関係第1項中「及びそれに関する手続き」を削る。

第5条第3号関係第2項第2号中「うえで、委員会から加害者等に直接的に指導等を行うこと」を「上で、委員会が指導・調停等を行うこと」に改め、同項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

- 2 保護・救済は、原則として要請が行われた日から2か月以内に行うこととする。

第5条第4号関係を削る。

附 則

この運用は、平成14年7月19日から実施する。

富山大学公開授業実施要項の制定

富山大学法公開授業実施要項の制定理由

富山大学が行う公開授業の実施に関し、所要事項を定める。

富山大学公開授業実施要項を次のとおり制定する。

平成14年7月19日

富山大学事務局長 新 屋 秀 幸

富山大学公開授業実施要項

(趣 旨)

第1 この要項は、富山大学（以下「本学」という。）が行う公開授業（以下「オープン・クラス」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第2 オープン・クラスは、生涯学習に対する社会的要請に応えるという観点から、本学が開講する授業を公開し、生涯学習の機会を広く地域住民に提供するとともに、本学と地域社会との連携を深めることを目的とする。

(実施形態)

第3 オープン・クラスは、本学が教育上の目的を達成するため体系的に編成される教育課程を構成する授業科目を公開して実施する。

(受講生)

第4 オープン・クラスの受講生は、富山大学オープン・クラス受講生募集要項（以下「募集要項」という。）により受講届を提出し受講を登録した者とする。
2 オープン・クラスの受講資格は、高等学校卒業若しくはこれと同等の学力があると認められる者とする。

(公開授業科目等)

第5 対象となる授業科目は、難易度に応じて、次の三段階に区分する。
(1) 入門的な内容であり、高等学校卒業程度の学力を必要とするもの（大学1年次生対象の授業）
(2) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの（大学2～3年次生対象の授業）

(3) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの（大学3～4年次生対象の授業）

2 本学が開講する授業科目のうち、本学学生に対する教育上の目的を達成する必要性から、公開することがふさわしくないとみなされるものは、公開の対象としない。
3 オープン・クラスの受講生には、単位の認定は行わない。

(受講生の募集)

第6 オープン・クラスの受講生の募集は、募集要項により行う。
2 募集要項については、別に定める。

(受講料等)

第7 オープン・クラスに係る受講料については、「国立学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和36年文部省令第9号）」に係る通達に定める額とする。
2 オープン・クラスの受講料は、受講届を提出するときに徴収し、既納の受講料はいかなる理由があっても還付しない。
3 オープン・クラスの受講に当たり、受講生が授業で使用するテキスト代並びにその他の費用については、受講生の負担とする。

(受講生の義務)

第8 オープン・クラスの受講生は、受講する授業を妨害してはならない。
2 オープン・クラスの受講生は、受講に当たり本学が行う教育及び研究に支障を来たさないよう努めるとともに、本学関係者の指示に従わなければならない。

(受講の停止)

第9 オープン・クラスの受講生が、第8の義務に違反し、本学の秩序を乱し、又は受講生としてふさわしくない言動等があった場合は、受講を停止することができる。

2 前項による受講停止の場合であっても、既納の受講料は返還しない。

(損害賠償)

第10 オープン・クラスの受講生が故意又は過失により本学の施設、設備等を破損、滅失又は汚損したときは、速やかに届け出るとともに、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(オープン・クラスの実施の企画等)

第11 オープン・クラスの実施の企画等は、富山大学教育委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、学長が行う。

(雑 則)

第12 委員会は、オープン・クラスの実施に当たり、富山大学生涯学習教育研究センター運営委員会その他関係委員会と密接に連携するものとする。

2 この要項に定めるもののほか、オープン・クラスの実施に関し必要な事項は、委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この要項は、平成14年7月19日から実施する。



学生生活委員会（7月2日）

(審議事項)

- (1) 大学祭の見直しについて
- (2) 大学食堂と学生会館の整備について

水質保全センター運営委員会（7月3日）

(審議事項)

- (1) 水質保全センター長の推薦について

入学試験実施委員会（7月4日）

(審議事項)

- (1) 平成15年度入学者選抜検査の実施に関する申合せについて
- (2) 平成15年度富山大学入学者選抜要項（案）について
- (3) 平成15年度富山大学特別選抜学生募集要項（案）について
- (4) 平成14年度高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会実施計画（案）について
- (5) 平成14年度富山大学説明会実施要項（案）について
- (6) 入試問題検討専門委員会委員について
- (7) 電算処理言語について

入学試験管理委員会（7月8日）

(審議事項)

- (1) 平成15年度入学者選抜試験実施に関する申合せ（案）について
- (2) 平成15年度富山大学入学者選抜要項（案）について
- (3) 平成15年度入学試験関係日程の一部変更について

富山大学の組織運営体制の整備に関する検討委員会（7月9日）

(審議事項)

- (1) 新しい評価体制について

教養教育運営協議会（7月10日）

(審議事項)

- (1) 大学評価・学位授与機構による大学評価について
- (2) 公開授業について
- (3) 教員研修会開催要項（案）について
- (4) その他
 - ① 教養教育における日本技術者教育認定への対応について
 - ② 広報誌の発行について
「ニューズレター」

自己点検評価委員会（7月15日）

(審議事項)

- (1) 平成12年度着手継続分の全学テーマ別評価「教養教

育」の自己評価書について

- (2) 平成13年度着手分の全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」の自己評価書について
- (3) 平成13年度自己点検評価結果の対応について
- (4) 平成14年度の自己点検評価について

部局長会議（7月19日）

（審議事項）

- (1) 文部科学省在外研究員候補者（短期在外研究員）の推薦基準について

評議会（7月19日）

（審議事項）

- (1) 教員定員の運用について
- (2) 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針及び同運用の一部改正について
- (3) 平成12年度着手継続分の全学テーマ別評価「教養教育」の自己評価書について
- (4) 平成13年度着手の全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」の自己評価書について

学生生活委員会（7月22日）

（審議事項）

- (1) 寮生との話し合いについて

留学生センター運営委員会（7月23日）

（審議事項）

- (1) 平成13年度留学生センター運営費の決算について
- (2) 平成14年度留学生センター運営費の予算について
- (3) 富山大学留学生指導連絡会議要項（案）について

附属図書館運営委員会（7月24日）

（審議事項）

- (1) 平成14年度学生用図書購入費の予算執行について

国際交流会館運営委員会（7月26日）

（審議事項）

- (1) 平成14年10月期国際交流会館入居者の選考について

入学者選抜方法研究委員会（7月30日）

（審議事項）

- (1) AO入試について

入学試験実施委員会（7月30日）

（審議事項）

- (1) 平成15年度富山大学学生募集要項（特別選抜）（案）について
- (2) 平成15年度富山大学学生募集要項（一般選抜，専門高校・総合学科卒業生選抜，私費外国人留学生選抜）

学

事

再 編 ・ 統 合 ⑬

本学学内広報紙「富大速報」第15号に標記の記事が次のとおり掲載されました。

○富大速報第15号 『再編・統合⑬』

第5回新大学構想協議会報告

○第5回新大学構想協議会が平成14年6月25日（火）に富山大学において開催されました。

この協議会の議事概要は、以下のとおりです。

〔議 事〕

1. 議事要録の確認

第4回協議会（5月29日開催）の議事要録が確認された。

2. 新大学構想について

(1) 総合人間科学部案（富山医薬大提案）について

協議に先立ち、瀧澤学長から、6月7日付け高久学長からの書簡による質問に対する回答を含めて、富山医科薬科大学から提案のあった総合人間科学部案及び高岡短期大学から提案のあった芸術文化学部案について、本学の構想を説明したい旨述べられた。

また、瀧澤学長から、今回提案する新大学構想案については、ワーキンググループを設け、第3回協議会において提案した構想にさらに検討を加えたものであり、その座長であった岡部理学部長から説明する旨述べられた。

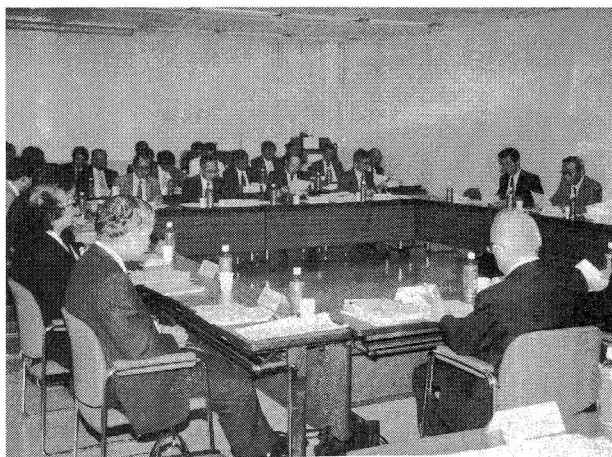
次いで、岡部理学部長から、教養教育及び人間発達科学部案について資料に基づき説明があり、教養教育の考え方、教養教育の実施体制、教員養成機能について種々意見交換があった。

(2) 芸術文化学部案（高岡短大提案）について

岡部理学部長から、情報芸術学部案について、また、秦教授から、芸術文化学部を改めた芸術情報文化学部案について資料に基づき説明があり、種々意見交換があった。

3. 今後の検討の進め方について

次回協議会で協議する事項の整理と併せて、教養教育の実施体制をワーキンググループで検討することとし、その進め方については、議長団で協議することとした。



4. その他

(1) 報道機関、富山県への対応について

今回の協議会の報道機関及び富山県への対応については、会場大学である富山大学が行うことを確認した。
 なお、県のオブザーバー出席について意見交換があり、现阶段では、3大学の合意が得られないことから、今までどおりオブザーバー出席は遠慮願うこととした。

(2) 次回協議会について

次回協議会は富山医科薬科大学で開催することとなっており、開催日時等詳細については事務局で調整することとした。

以 上

※再編・統合に関する情報を提供するために、富山大学ホームページ「学内向け情報」に（再編・統合情報）の項目を設置しました。富大速報はここからもご覧になれます。

本年度10月から525科目の授業を一般公開

生涯学習への関心が高まる中、高度な知識を身に付ける場を一般市民に提供し、地域とのつながりを深めることを目的として、10月から学生向けの授業を一般に公開する「オープン・クラス」をスタートさせることになりました。

この全学的な規模での授業公開は、信州大学に続き、全国の国立大学で2番目となります。これまで、本学では平成11年から一部の授業を一定期間だけ公開していましたが、これをさらに進めて、10月7日（月）から来年2月4日（火）までの期間、全2,500科目中5分の1にあたる525科目の授業を公開するものです（ただし、単位認定はしない。）。また、授業の難易度を入門的な「A」、一定の基礎知識が必要な「B」、系統的に学習したことを前提とする「C」の3段階に区分し、各科目で2人から20人ほどの定員を設ける予定です。なお、受講料等は下記表のとおりです。

受 講 料	一授業科目 7,800円
募 集 期 間	平成14年9月17日（火）～ 平成14年9月30日（月）
試 聴 期 間	平成14年10月7日（月）～ 平成14年10月11日（金）
問 い 合 わ せ 先	生涯学習教育研究センター ☎076-445-6956

た先生方はじめ関係各位に御礼申し上げます。「法人化」や「再編・統合」の波が容赦なく地方大学を洗う中で、本学の進む道は、地域との連携を強化することであろうと考えています。「知」を巡る大学と地域との交流、これが生涯学習教育研究センターの活動のコンセプトです。

「オープン・クラス」をはじめとする大学開放事業がいつそう発展するよう、これまで以上の学内のご理解とご協力をお願いする次第です。



△今年度前期に開催された公開授業の様子

（大石 昂生涯学習教育研究センター長の談話）

10月からの「オープン・クラス」の開設によりようやくこぎつけることができました。講義の開放にご協力くださっ

平成14年度第 1 回富山大学運営諮問会議を開催

本年度の第1回富山大学運営諮問会議が7月31日（水）に開催され、委員改選で再任された石坂前富山国際大学長や新たに公募で選ばれた委員2人を含む7人が出席されました。

会議の冒頭で瀧澤学長が「昨年は、入試ミス隠ぺい問題があり、失った信頼の回復に全力をあげて取り組んできたが、先日、元受験生全員との補償がまとまったところであり、なお一層信頼回復に努力したい。現在、全国の国立大学は厳しい状況に置かれており、競争的環境の中で大学の個性を発揮するために、本学も様々な努力を積み重ねている。本日は、県内3大学の再編統合に向けて協議が進む中、新大学のあるべき姿及び国際的連携・交流について皆さんから忌憚のない意見をいただき、大学運営に生かしたい。」と挨拶されました。

次に、会長に石坂誠一前富山国際大学長が、副会長に中尾哲雄富山経済同友会代表幹事が選出されました。

その後、本学から、学内施設整備状況等について報告があり、引き続き、国立大学の再編・統合について各委員から以下のような提言がありました。

- ・「富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項」は評価できる。これを基本に再編・統合の努力をしてもらいたい。
- ・3大学の再編・統合に当たっては、地域貢献、教員養成機能の保持、環日本海指向等、富山県の要望を十分取り入れてほしい。

- ・3大学ともそれぞれ設置の背景と歴史を有しており、お互いこれらに配慮しながらも、新しい特色ある大学を目指してほしい。
- ・若い内に幅広い教養を身につけることは非常に重要であり、教養教育の実施体制の充実を図ってもらいたい。
- ・若い研究者が研究に専念できる環境を提供することが大切であり、これを可能とする管理運営組織としてもらいたい。国際レベルの研究を背景に教育することが大事である。
- ・3大学それぞれの構想には相違点も見られるが、各大学の歴史、設置目的等の違いから一度にこれを埋めることは困難な部分もある。時間的な制約もあり、まずは現時点での現実的な再編を行うことが急務であり、中期目標・中期計画の中で将来構想を提示する方法もある。

なお、出席された委員は次の方々です。（50音順）

- 吾妻 一興（宮城教育大学副学長）
 石坂 誠一（前富山国際大学長）
 井上 孝美（放送大学学園理事長）
 上野 隆三（北日本新聞社代表取締役会長）
 橋本 茂信（元公立学校教員）
 平能富太郎（元北陸銀行取締役）
 福岡 隆（富山県教育委員会教育長）

平成14年度文部科学省海外研究開発動向調査派遣者の決定

所 属	職 名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派遣期間
工学部	助教授	山口 昌樹	リンチェピング (スウェーデン) リンチェピング大学	歯肉溝液を用いた非侵襲血糖測定手法の調査	14. 11. 15 } 15. 1. 13

平成14年度後期公開講座の実施計画を決定

平成14年度後期の富山大学公開講座を次のとおり実施することになりました。

講座名	開設期間	定員	受講料	講師氏名(所属・職名)
パソコン教室 Windows入門	14年9月1日(日)～ 14年10月20日(日)(毎週日曜日) 9時00分～12時00分 (計5日間15時間)	20名	6,800円	米田 政明(工学部 教授) 柴田 啓司(工学部 助手) 高井 正三(総合情報処理センター 助教授) 大石 昂(生涯学習教育研究センター 教授) 仲嶺 政光(生涯学習教育研究センター 講師)
高齢者のための情報機器を考える	14年9月3日(火)～ 14年10月1日(火)(毎週火曜日) 18時00分～20時30分 (計5日間12.5時間)	40名	6,800円	山西 潤一(教育学部 教授) 黒田 卓(教育学部 助教授)
とことん子供を知ろう －いろいろな角度から子どもを見る－	14年9月5日(木)～ 14年9月26日(木) 14時00分～15時30分 (計7日間10.5時間)	20名	6,800円	堀井 啓幸(教育学部 助教授) 仲嶺 政光(生涯学習教育研究センター 講師) 稲垣 応頼(教育学部附属教育実践総合センター 助教授) 黒羽 正見(教育学部 助教授) 市瀬 和義(教育学部 助教授) 神川 康子(教育学部 教授)
思春期の問題を考える	14年9月13日(金)～ 14年10月18日(金)(毎週金曜日) 18時00分～19時30分 (計6日間9時間)	20名	5,800円	佐伯 真人(教育学部附属教育実践総合センター 教授) 塚野 州一(教育学部 教授) 日俣 順子(教育学部附属教育実践総合センター 客員教授) 神川 康子(教育学部 教授) 生田 貞子(教育学部 教授) 稲垣 応頼(教育学部附属教育実践総合センター 助教授)
睡眠の科学－眼りと心身の健康－	14年9月21日(土)～ 14年10月26日(土) 18時30分～20時00分 (計6日間9時間)	20名	5,800円	神川 康子(教育学部 教授) 芝垣 正光(教育学部 教授)
山歩きの楽しみ(その2)	14年9月28日(土)～ 14年9月29日(日) 講義9時00分～12時00分 登山9時00分～16時00分(計2日間9時間)	15名	5,800円	福田 明夫(教育学部 教授) 増田 恭次郎(理学部 講師) 宇井 啓高(教育学部 教授)
中級英会話	14年10月5日(土)～ 14年12月14日(土)(毎週土曜日) 13時30分～15時00分 (計10日間15時間)	20名	6,800円	陸 君(京都文教大学 助教授)
フランス語初級Ⅱ	14年10月12日(土)～ 14年12月21日(土)(毎週土曜日) 10時00分～12時00分 (計10日間20時間)	20名	7,800円	中島 淑恵(人文学部 助教授)
シニアからはじめるIT講座(Ⅰ)	14年10月19日(土)～ 14年10月20日(日) 9時00分～16時00分 (計2日間12時間)	20名	6,800円	高井 正三(総合情報処理センター 助教授) 谷崎 文寛(総合情報処理センター 技術補佐員)
初級中国語	14年10月19日(土)～ 14年12月14日(土)(毎週土曜日) 11時00分～11時30分 (計8日間12時間)	20名	6,800円	藤野 真子(人文学部 助教授)
食文化から見たヨーロッパ中世	14年10月31日(木)～ 14年11月28日(木)(毎週木曜日) 15時00分～16時30分 (計5日間10.5時間)	20名	6,800円	徳橋 曜(教育学部 助教授)
数理と情報の世界	14年11月1日(金)～ 14年11月29日(金)(毎週金曜日) 18時00分～21時00分 (計5日間15時間)	25名	6,800円	東川 和夫(理学部 教授) 小林久壽雄(理学部 教授) 木村 巖(理学部 助手) 菅谷 孝(理学部 教授) 幸山 直人(理学部 助手)
究極の干し柿を作ろう	14年11月8日(金)～ 14年11月9日(土) 8日 12時00分～18時00分 9日 9時00分～13時00分 (計2日間10時間)	20名	5,800円	開 義盛(元福野高校教諭) 開 光子(砺波森林組合) 山田 義昭(元富山干し柿出荷組合連合会長) 竹井 史(教育学部 助教授) 鶴野 伊光(富山干し柿出荷組合連合会長)

	講座名	開設期間	定員	受講料	講師氏名(所属・職名)
	究極のおかきを作ろう	14年11月9日(上)～ 14年11月10日(日) 9日 12時00分～18時00分 10日 9時00分～13時00分 (計2日間10時間)	20名	5,800円	北田 勇((株)日の出屋製菓産業 取締役管理本部長) 石田 義一((株)石田組 取締役会長) 石田きくい(農業) 竹井 史(教育学部 助教授)
【 教 養 講 座 】	シニアからはじめるIT講座(Ⅱ) ワードプロセッサを使って自叙伝や詩 歌集を出版しよう!	14年11月9日(上)～ 14年11月10日(日) 9時00分～16時00分 (計2日間12時間)	20名	6,800円	高井 正三(総合情報処理センター 助教授) 畑 篤(総合情報処理センター 技術専門職員)
	前近代東アジアにおける言語と社会	14年11月21日(木)～ 14年12月19日(木)(毎週木曜日) 13時30分～15時00分 (計5日間7.5時間)	30名	5,800円	鈴木 信昭(人文学部 教授) 鈴木 景二(人文学部 助教授) 徳永 洋介(人文学部 助教授)
	シニアからはじめるIT講座(Ⅲ) 思い出の写真集を作ろう!	14年11月30日(上)～ 14年12月1日(日) 9時00分～16時00分 (計2日間12時間)	20名	6,800円	高井 正三(総合情報処理センター 助教授) 布村 紀男(総合情報処理センター 技術補佐員)
【 健 康 ス ポ ー ツ 教 室 】	親子スキー教室	15年2月1日(上)～ 15年2月2日(日)	親子 20組	6,800円	堀田 朋基(教育学部 教授) 鳥海 清司(教育学部 助教授) 大川 信行(教育学部 助教授) 大石 昂(生涯学習教育研究センター 教授)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	14. 7. 1	安藤 智子		講 師 人文学部 (人文学科行動文化)
	"	武 拉平		講 師 (研究機関研究員) (極東地域研究センター)
	"	ラーマン モハマド ミザヌール		講 師 (中核的研究機関研究員) (ベンチャー ・ビジネス・ラボラトリー)
	"	片山 進		技能補佐員 (学生部厚生課調理師)
	"	王 利		教務補佐員 (水素同位体科学研究センター)
	14. 7. 15	鄒 勇		講 師 (中核的研究機関研究員) (ベンチャー ・ビジネス・ラボラトリー)
昇 任	14. 7. 1	淡川 典子	助教授 教育学部 (社会科教育)	教 授 教育学部 (社会科教育)
	"	市瀬 和義	助教授 教育学部 (理科教育)	教 授 教育学部 (理科教育)
	"	梶座圭太郎	助教授 教育学部 (理科教育)	教 授 教育学部 (理科教育)
	"	樋口 弘行	助教授 理学部 (化学科合成有機化学)	教 授 理学部 (化学科合成有機化学)
配 置 換	14. 7. 16	永井 昭光	経理部経理課給与係主任	経理部主計課管財係主任
	"	鳥海衣美子	経理部主計課管財係主任	経理部経理課共済組係主任
任用更新	14. 7. 11	野沢 陽子	文部科学事務官 (学生部学生課)	臨時的任用を更新する (～14. 8. 28)
辞 職	14. 7. 31	加賀見 實	経理部経理課長	辞 職
退 職	14. 7. 1	片山 進	技能補佐員 (学生部厚生課調理師)	平成14年 6 月30日限り退職
	14. 7. 13	土田 亮子	事務補佐員 (教育学部)	平成14年 7 月12日限り退職
	14. 7. 16	松井 輝代	臨時用務員 (教育学部炊婦)	平成14年 7 月15日限り退職
	"	堰免 芳子	" "	"
	"	仲谷千鶴子	" "	"
	"	藤井 香	" "	"
	14. 7. 25	山田 知訓	事務補佐員 (経済学部)	平成14年 7 月24日限り退職
職務命令	◎富山大学法人化事務推進本部関係			
	14. 7. 1	前田 邦樹	総務部企画室長	総括室長
	"	門前 剛二	総務部企画室専門職員	同室主査 (専任)
	"	雁田 彰	総務部人事課専門員	法人組織準備室長 (専任)
	"	杉本 周平	総務部総務課課長補佐	同室主幹
	"	羽根 俊	総務部研究協力課専門員	"
	"	矢後 和子	総務部人事課課長補佐	"
	"	酒井 利満	総務部総務課総務係長	同室主査
	"	山本 広志	総務部研究協力課研究協力係長	"
	"	友坂 義一	経理部主計課専門員	法人会計準備室長 (専任)
	"	伊野不二夫	総務部企画室室長補佐	同室主幹
	"	堀 和實	総務部企画室専門職員	同室主査
	"	高森 満	経理部主計課司計係長	同室主査
	"	伏喜 俊至	経理部主計課財務係長	" (専任)
	"	太田 則春	経理部経理課情報企画係長	"
	"	竹苗吾希子	経理部主計課事務補佐員	同本部勤務
	◎富山県内国立大学再編・統合富山大学準備事務室関係			
	14. 7. 1	牧野 秀應	経理部経理課専門員	室長補佐 (専任) を免ずる
	"	向 雅己	総務部総務課専門員	室長補佐 (専任) を命ずる
	職務命令	14. 7. 15	田口 茂	教 授 理学部
	14. 7. 26	大森 克史	教 授 教育学部	総合情報処理センター副センター長 (～16. 7. 25)

学 内 諸 報

経済学部長の改選



古田俊吉経済学部長の任期が、平成14年9月29日で満了することに伴い、経済学部教授会は、7月3日（水）に次期学部長候補者選挙を行いました。

その結果、八木保夫教授が次期学部長候補者に選出されました。任期は、平成14年9月30日から2年間。

八木教授は、昭和46年3月早稲田大学第一法学部を卒業、同49年3月同大学大学院法学研究科修士課程（基礎法学専攻）を修了、同55年10月同博士課程公法学専攻（英米法専修）を単位修得退学後、同年11月富山大学教養部講師に採用となり、同56年10月同助教授、平成3年10月同教授、同5年4月富山大学経済学部教授となり、同13年4月から評議員に併任され、現在に至っています。

専門は、英米法。

法学修士（早稲田大学）。

神奈川県出身。

（就任にあたって）

つい先頃、日本の高等教育にとって戦後最大規模の改革と言われる中央教育審議会答申が出され、全ての大学への第三者評価の義務付けや専門職大学院制度の創設等の方針が明らかになりました。これより先国立大学は、

既に独立行政法人化と再編統合問題の渦中に置かれており、今回の中教審答申を加えると、今まさに怒濤の如く押し寄せる改革の荒波の中に立たされているという厳しい状況下にあります。

今後取り組まなければならない課題の若干例を列举しただけでも、法人化準備の関係では、来年年明け以降の国立大学法人法の制定を念頭に置いた富山大学全体の運営組織案の作成と学部段階での運営基本方針の策定、平成16年4月の法人設立時における運営交付金交付を目指した大学の中期目標・中期計画の策定と学部段階でのその検討、来年7月頃に予定されている国立大学評価委員会の設置及び中教審答申に明示された第三者評価義務付けに対処するための全学・学部レベルにおける大学評価体制の整備等の諸課題、他方で、再編統合問題の関係においては、各学部の構想をしっかりと確立すると同時に、進展捗々しくない交渉状況を打破するためにも新学部構想案を含めた他の2大学との融合・融和の可能性の模索、新大学を特色付け、上記の中教審答申へ対応するための社会科学系学部として経営管理部門等での専門職大学院構想の検討等々、何れも難題ばかりが揃っています。

第三者評価の導入は、その結果の公表を通じて当該大学の真価を社会に問うこととなり、大学自ら改善し、教育・研究の質向上に努力しなければ市場原理によって淘汰される時代に突入したことを意味することになるでしょう。このような重要な時期に思いも掛けず経済学部の纏め役を勤めることとなりました。上述の諸課題のうち一つでも多くを解決できればと念願しております。どうぞご指導ご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

総合研究棟が竣工

6月25日(火)に、より高度で独創的な研究開発の促進と高度技術者の育成を目指す全学共用施設であり、産学の最先端技術を生かすベンチャー・ラボラトリーとの融合複合施設でもある「総合研究棟」が竣工しました。

なお、総合研究棟の特徴を、巻末に掲載してあります。

留学生が七夕を飾る

本学留学生が7月4日(木)、留学センター玄関に七夕を飾りました。

これは、7月に入ってから授業の合間をぬって準備を行ってきたもので、短冊には「中日友好」の国際交流的なものから、「大学院に合格しますように」との現実的なものまで、たくさんの願いごとが書かれていました。

この飾り付けで留学生センターは、一段とにぎやかになりました。



理学部で大学評価に関する懇話会を開催

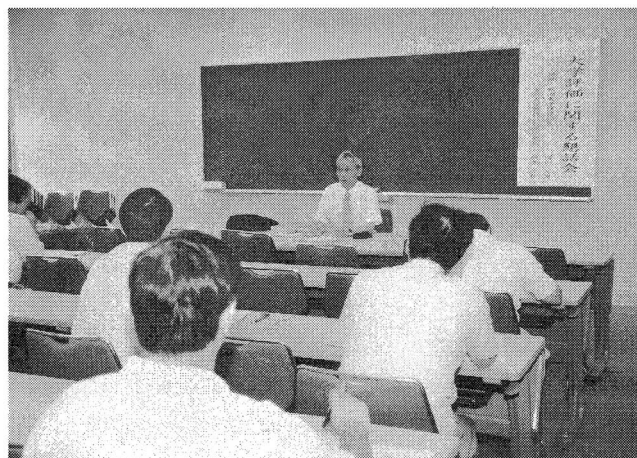
7月8日(月)～9日(火)、理学部において、大学評価・学位授与機構による分野別教育評価・研究評価(理学系)への対応に資するための懇話会が開催されました。

初日の7月8日には、平成12年度着手の分野別教育評価を受けた新潟大学 増田芳男 理学部長から、評価の特色、資料収集の重要性などについて説明されました。特に新潟大学では、理学部が評価を受けた後、平成13年10月から14年4月の間に、全ての学部が「機構」の評価要領に則って大学独自の「教育評価」を実施し、来るべき本番の評価への準備を既に済ましていると述べられました。その後、参加した約50名の本学教職員との間で活発な質疑応答がありました。

翌日の9日には、平成12年度着手の分野別研究評価を受けた金沢大学前理学部長の樋渡保秋 教授が研究評価に関する講演を行い、教員自身による自己評価と機構による評価との間にはかなりのずれがあったことなど、研究評価の難しさが披露されました。また、研究領域により評価基準が異なる点や、機構への意見の申立とそれに

対する機構からの対応等についての活発な意見交換も行われました。

この2日間にわたる懇話会は、今後機構による評価への対応を考える上で大変有意義なものとなりました。



△講演する金沢大学の樋渡保秋 教授

理学部 2 号館改修工事に伴う絵画の移設

昭和39年に画家の伏木澄夫氏からの寄付を受けて、理学部 1 号館の顔として玄関に展示してありました絵画が理学部 2 号館の改修工事竣工に伴い、このたび、同館 1 階サブエントランスホールの壁面に移設されました。



△絵画を前にした作者の伏木氏（右）と竹内 名誉教授

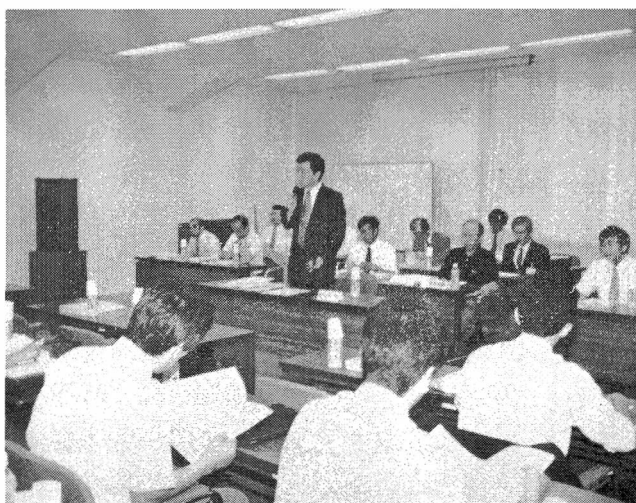
高等学校の進路指導担当教諭との懇談会を開催

7月26日（金）に平成14年度の高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会が黒田講堂において開催されました。

この懇談会は、本学の入試内容や教育内容などについて理解を得ることを目的として毎年開催されているもので、今年は富山、石川、福井、新潟及び岐阜県のほか、遠くは北海道から、高等学校進路指導担当教諭80名の参加があり、本学からは塩澤副学長や、各学部入試関係委員など15名が出席しました。

はじめに、塩澤副学長が挨拶を行い、現在大学を取り巻く状況や学内施設の整備について説明の後、昨年の入試合否判定過誤についての富山県内の高等学校の協力について謝辞を述べられました。

会議では、本学から平成15年度富山大学入学試験の概要や富山県内の国立3大学の再編・統合、国立大学行政法人化の検討状況並びに各学部（学科・課程）の特色などについて説明があった後、高等学校側からの質問・要望等について回答・意見交換が行われ、充実した懇談会となりました。



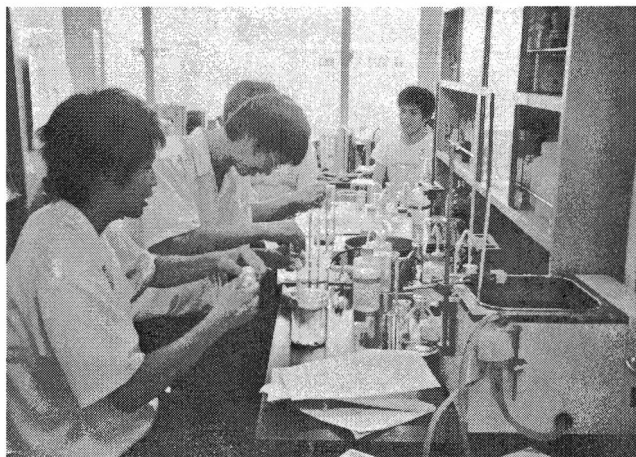
理学部で「夢化学-21」を開催

7月27日（土）に理学部化学科主催の一日体験入学「夢化学-21」が実施され、大勢の高校生で賑わいました。これは昨年度に引き続き開催されたもので、高校生にも理解できるような化学実験を通して、化学の楽しさ、不思議さを体験してもらい、化学好きを増やすことを目的とするものです。また、将来、化学と直接関係のない道に進む人達にも化学と親んでもらうとともに、高校生が日頃あまり馴染みのない大学の研究室を訪問し、学生の研究内容を知ることによって大学進学の際の学部選択の参考材料となることも期待されています。

開催当日は、用意された下記の9つのテーマから各参加者が2テーマを選択して実験を行いました。

1	放射線を計ろう：霧箱の実験
2	凝固点降下を測ろう：熱伝対温度計とは何か
3	似たものどうしをきれいに分けてみよう：クロマトグラフィー
4	簡単なガラス器具を作ってみよう
5	カオスと振動反応
6	化学ホテルを作ろう：生物発光と化学発光
7	フルーツの香りを作ろう
8	ナイロンを作ろう
9	コバルト錯体を使ってきれいな紫色を作ろう

参加した高校生達は、「楽しむだけでなく、知らないことへの発見があった」、「教科書だけでなく生で見られたのが良かった」、「自分達で実験できておもしろかった」、「来年も参加したい」などの感想を述べていました。



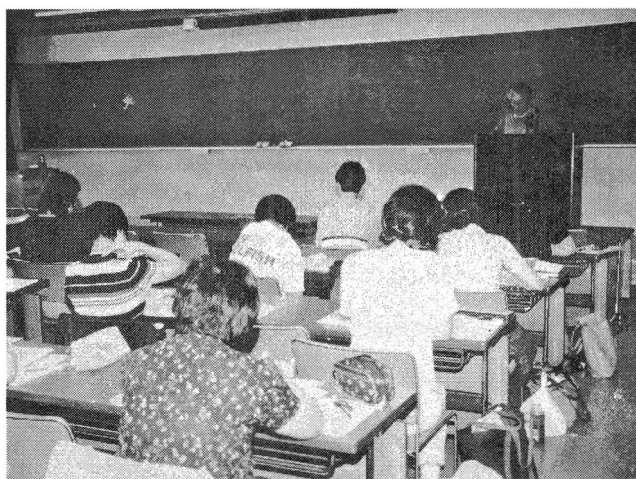
学校図書館司書教諭講習会を開催

平成14年度学校図書館司書教諭講習会が、7月30日（火）から8月8日（木）まで、共通教育棟及び経済学部を会場として実施されました。

この講習は、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭を養成するため、文部科学大臣の委嘱を受けて毎年実施されているもので、本学は平成5年度から担当し、今回で10回目を数えます。

本年度は126人の参加があり、その内訳は現職教諭112人、学生（3年次以上）8人、その他6人でした。

参加者は、猛暑にもかかわらず、学校図書館司書教諭の資格取得に向けて、熱心に受講していました。



(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡航先国	目 的	期 間
外国出張	経済学部	助教授	馬 駿	中 国	現地の失業問題に関する調査の打ち合わせ	14. 7. 1 } 14. 7. 10
	経済学部	助教授	内田 康郎	アメリカ合衆国	E. コマース進展後の競争戦略の革新性に関する研究	14. 7. 1 } 14. 9. 1
	極東地域研究センター	助教授	今村 弘子	中 国	研究打ち合せ	14. 7. 2 } 14. 7. 7
	理学部	教授	池田 榮雄	イ タ リ ア	研究集会「反応拡散系に対する特異極限法」に出席, 講演	14. 7. 4 } 14. 7. 13
	工学部	教授	熊澤 英博	ポ ー ラ ン ド	気系および水系環境保全のための酸化チタン光触媒技術の反応工学的検討と評価	14. 7. 6 } 14. 8. 4
	教育学部	教授	長谷川総一郎	リトアニア, ラトビア, エストニア	プリエナ国際木彫刻家キャンプ2002に出席	14. 7. 10 } 14. 8. 1
	工学部	教授	吉村 敏章	アメリカ合衆国	第20回有機硫黄化学国際会議に出席, 研究資料収集	14. 7. 13 } 14. 7. 21
	理学部	教授	清水 正明	ペ ル ー	カハマルカ盆地の地質調査及びクントゥル・ワシ遺跡の石質鑑定	14. 7. 15 } 14. 8. 4
	工学部	講師	宮武 滝太	韓 国	日韓共同理工系学部留学生プログラム第2回合同説明会に出席	14. 7. 17 } 14. 7. 22
	工学部	助教授	會澤 宣一	ド イ ツ	第35回配位化学国際会議に出席・研究発表	14. 7. 20 } 14. 7. 29
	工学部	教務職員	宮嶋 俊明	オーストラリア	World Congress on Particle Technology4に出席, 発表	14. 7. 20 } 14. 7. 27
	工学部	教授	中嶋 芳雄	韓 国	2nd Asian Conference on Vision (ACV2002)に出席, 研究発表	14. 7. 20 } 14. 7. 25
	工学部	教授	山本 健市	オーストラリア	World Congress on Particle Technology4に出席, 研究発表	14. 7. 20 } 14. 7. 27
	工学部	助教授	長谷 博行	カ ナ ダ	カラー文書画像処理に関する研究を行う	14. 7. 22 } 14. 9. 19
	教育学部	教授	雨宮 洋司	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教諭	城岡 恭子	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教諭	曲師 政隆	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教諭	松浦 悟	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教諭	平井久美子	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡航先国	目 的	期 間
外国出張	附属学校	教 諭	松 永 和 久	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	原 野 克 憲	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	本 田 敏 也	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	草 野 剛	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	萩 中 泰 弘	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	荒 治 和 幸	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	藤 井 昭 彦	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	橋 本 大 一 郎	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	三 原 茂	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	附属学校	教 諭	沼 崎 信 行	中 国	大連海事大学との意見交換	14. 7. 24 } 14. 7. 27
	人文学部	助教授	呉 人 恵	ロ シ ア	文献資料収集	14. 7. 26 } 14. 8. 31
	経済学部	助教授	岸 本 壽 生	香 港	香港・珠海・広州のSMNに関する調査	14. 7. 31 } 14. 8. 13
海外研修	経済学部	講 師	岩 田 真 一 郎	韓 国	ASRES/AREUEA Joint International Conference 2002に出席, 発表	14. 7. 3 } 14. 7. 5
	理学部	助 手	光 太 暁 弘	ポーランド, ドイツ	強相関電子系国際会議(2002)に出席, 研究発表	14. 7. 8 } 14. 7. 16
	留学生センター	講 師	後 藤 寛 樹	ア メ リ カ 合 衆 国	国際会議 (第3回日本語教育とコンピュータ) に出席, 発表	14. 7. 10 } 14. 7. 15
	留学生センター	助教授	深 澤 の ぞ み	ア メ リ カ 合 衆 国	国際会議 (第3回日本語教育とコンピュータ) に出席, 発表	14. 7. 10 } 14. 7. 15
	留学生センター	助教授	濱 田 美 和	ア メ リ カ 合 衆 国	国際会議 (第3回日本語教育とコンピュータ) に出席, 発表	14. 7. 10 } 14. 7. 15
	理学部	助教授	小 田 島 仁 司	中 国	分子科学のフロンティアに関する国際シンポジウムに出席, 発表	14. 7. 12 } 14. 7. 20
	理学部	教 授	常 川 省 三	中 国	分子科学のフロンティアに関する国際シンポジウムに出席, 発表	14. 7. 12 } 14. 7. 20
	経済学部	教 授	小 倉 利 丸	韓 国	International Communication Association (国際コミュニケーション学会) で発表	14. 7. 14 } 14. 7. 20

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡航先国	目 的	期 間
海外研修	教育学部	教授	西川 友之	中 国	CVAの競技運営（ワールドリーグ）に関する調査研究	14. 7. 16 } 14. 7. 22
	工学部	講師	高松 衛	韓 国	2nd Asian Conference on Vision に出席	14. 7. 20 } 14. 7. 25
	理学部	教授	金森 寛	ド イ ツ	第35回配位化学国際会議に出席・ 発表	14. 7. 20 } 14. 7. 29
	工学部	講師	石井 雅博	韓 国	第2回アジア視覚学会に出席，発 表	14. 7. 21 } 14. 7. 25
	人文学部	助教授	青木 恭子	ロ シ ア	研究資料収集	14. 7. 22 } 14. 9. 5
	工学部	助手	須加 実	アメリカ合衆国	39th Meeting of the Society for Cryobiology(CRYO2002)に出席，研 究発表	14. 7. 26 } 14. 7. 31
	理学部	講師	唐原 一郎	アメリカ合衆国	分裂準備帯の発達過程におけるク ラスリン被覆小胞の役割について の研究を行う	14. 7. 31 } 14. 8. 27

主 要 行 事

本 部

- 7月1日 事務局連絡会
 2日 学生生活委員会
 3日 水質保全センター運営委員会
 4日 入学試験実施委員会
 5日 北陸地区国立大学長懇談会（於：KKRホテル金沢）
 北陸・信越地区国立大学長懇談会（於：KKRホテル金沢）
 8日 入学試験管理委員会
 事務局連絡会
 8日～9日 大学評価に関する懇話会
 9日 富山大学の組織運営体制の整備に関する検討委員会
 15日 大学入試センター試験富山県地区連絡会議
 自己点検評価委員会
 15日～17日 厚生補導研究協議会（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）
 16日 運営会議
 事務協議会
 事務局連絡会
 17日 就職講演会
 17日～18日 富山消防署立入検査
 18日 日本留学試験「中部（北陸グループ）地域ブロック会議」（於：金沢大学）
 19日 部局長会議
 21世紀COE対応委員会
 評議会
 22日 学生生活委員会
 23日 留学生センター運営委員会
 事務局連絡会
 21世紀COE対応委員会
 26日 高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会
 国際交流会館運営委員会
 26日～28日 天城学長会議（於：日本IBM天城ホームステッド）
 29日 新大学構想協議会（於：富山医科薬科大学）
 事務局連絡会

- 30日 入学者選抜方法研究委員会
 入学試験実施委員会
 31日 運営諮問会議

附 属 図 書 館

- 7月8日
 ～12日 中学生の体験学習「社会に学ぶ『14歳の挑戦』指導ボランティア」
 24日 附属図書館運営委員会

教 養 教 育

- 7月9日 教養教育企画専門委員会
 10日 教養教育運営協議会
 教養教育実施専門委員会
 24日 教養教育実施専門委員会

人 文 学 部

- 7月3日 学部予算委員会
 4日 学部国際交流委員会
 9日 学部予算委員会
 10日 教授会
 16日 特別昇給委員会
 17日 人文科学研究科小委員会
 学部教務委員会
 学部入学試験委員会
 学部予算委員会
 22日 講座代表者会議
 23日 学部将来計画委員会
 24日 人文科学研究科委員会
 教授会
 25日 学部自己点検評価委員会
 30日 学部法人化対応委員会

教 育 学 部

- 7月2日 学部国際交流委員会
 3日 予算委員会

教授会（臨時）
 教育学部及び附属学校園共同研究プロジェクト研究大会実行委員会代表者会議
 5日 給与及び在外研究員等検討委員会
 9日 附属教育実践総合センター運営委員会
 10日 学部入学試験委員会
 研究科小委員会
 研究科委員会
 教授会
 人事教授会
 12日 附属養護学校避難訓練
 17日 学部広報委員会
 附属幼稚園第1学期終業式
 18日 附属小学校第1学期終業式
 19日 附属養護学校第1学期終業式
 24日 人事委員会
 人事教授会
 平成14年度入学者（1年次生）教育職員免許状取得に関する説明会
 25日 学部学生生活委員会

経 済 学 部

7月1日 学部国際交流委員会
 3日 富山大学経済学部長候補者選挙
 教授会
 人事基本問題検討委員会
 財務委員会
 学部入学試験委員会
 4日 研究会委員会小委員会
 9日 図書等委員会
 学部教務委員会
 10日 人事教授会
 研究科委員会
 教授会
 17日 将来構想等検討委員会
 生涯学習・広報委員会
 23日 図書等委員会

理 学 部

7月3日 21世紀COE対応理工学委員会
 5日 学部予算委員会
 学部教務委員会

8日～9日 大学評価に関する懇話会
 9日 21世紀COE対応理工学委員会
 10日 第3年次編入学者選抜試験
 大学院理工学研究科博士後期課程部会
 大学院理工学研究科博士後期課程部会専攻長会議
 12日 学科長会議
 学部入試委員会
 17日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会
 教授会
 人事教授会
 18日 第3年次編入学者選抜試験合格者発表
 27日 夢・化学-21（主対象：高校生）

工 学 部

7月3日 21世紀COE対応理工学委員会
 5日 学部運営委員会
 8日 学部入学試験検討委員会
 9日 学部教務委員会
 21世紀COE対応理工学委員会
 10日 教授会
 理工学研究科博士前期課程工学部会
 理工学研究科博士後期課程部会（工学系）
 理工学研究科博士後期課程部会
 理工学研究科博士後期課程部会専攻長会議
 15日 学部紀要委員会
 16日 学部運営委員会
 17日 学部自己点検評価委員会
 23日 学部就職指導委員会
 25日 実験廃液の取扱いに関する講習会
 26日 学部運営委員会

地域共同研究センター

7月15日 運営委員会（持ち回り）
 16日 先端技術講演会
 24日 運営委員会（持ち回り）
 大学院教育講座
 30日 運営委員会

総合情報処理センター

7月1日 システム運用専門委員会

16日 企画運営専門委員会
運営委員会

水素同位体科学研究センター

7月15日 運営委員会

機器分析センター

7月29日 運営委員会

ベンチャービジネスラボラトリー

7月11日 ベンチャー・企業支援セミナー

【総合研究棟の特徴】

新たなかたちの実験室

実験スペースは可能な限り固定的な間仕切り壁を設けず、実験機器への給水、特殊ガスの供給及び電気の供給は、実験研究の変更に柔軟に対応できるデザインであり、ウェットでヘビーな実験研究にも対応できる構造となっています。また、プレハブ形式のクリーンルーム、磁気シールドルーム、電磁シールドルーム、冷凍実験室を備えた施設となっています。

ファサードデザイン

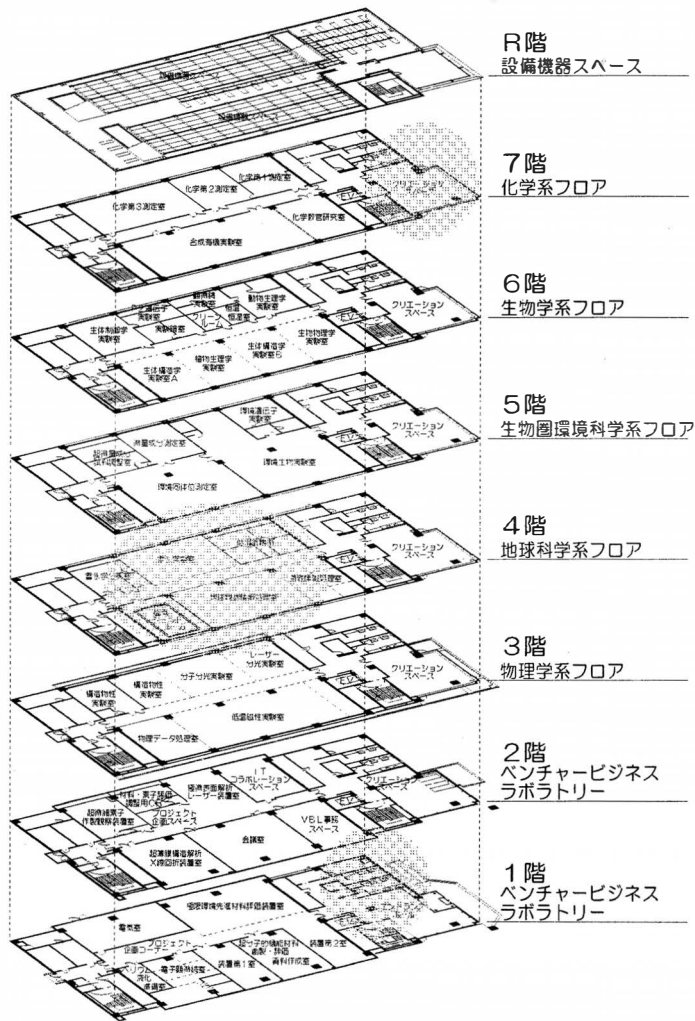
低層部は、壁面を前面に出し重厚感を演出し、上層部は先進技術が培われるオープンラボを2本の柱（シャフト）で支える安定感の中にも開放感を感じさせるデザインです。仕上げのタイルは、高級感と本学の建物に統一感を与え、ガラスのカーテンウォールは、躍進する高度な研究をイメージとし、時代を映す鏡といった役割を担っています。

エコロジー対策

時代の責任として、省エネ対策に複層ガラス、全熱交換器型換気扇、給排気型ドラフトチャンバーを採用し、空調負荷を低減させる他、トイレの洗浄水は、実験冷却水排水を再利用する方式、共用部の照明は人感センサーにより制御する方式を採用しています。

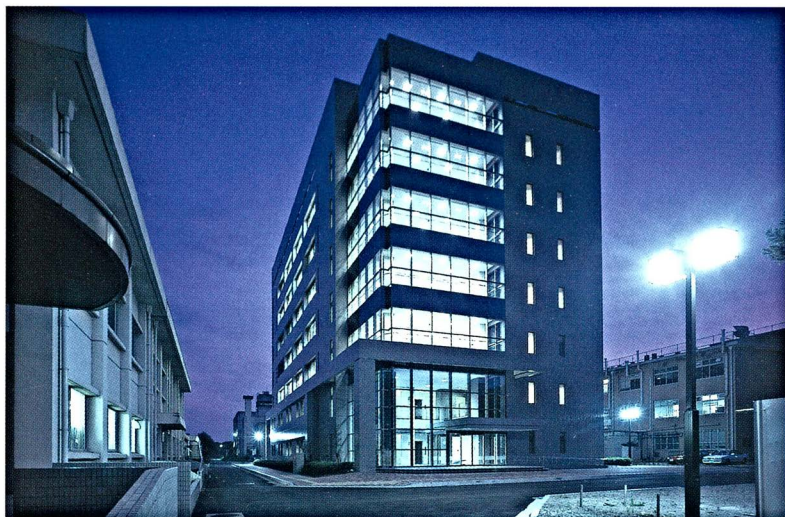
クリエイションスペース

従前のリフレッシュルームの使用方を考慮しただけでなく、スクリーン、情報コンセント等を設け、プレゼンテーション、ゼミナール、研究会にも使用できます。これからの新たな使い方を模索し、有効に活用することが望まれています。



バリアフリー対策

ユニバーサルデザインの一環として、スロープによるバリアフリー化、身障者用トイレ、身障者対応のエレベータを採用しています。



△夜空に映える総合研究棟



△くつろぎ空間と学究空間が融合するクリエイションスペース



△先端的研究を行うオープンラボ



△夏季休業期間中の学生課外活動風景



△夏のメイン・ストリート

編集 富山大学総務部企画室 〒930-8555富山市五福3190 TEL. (076) 445-6029 FAX. (076) 445-6033
印刷所 あげぼの企画㈱ 〒930-0031富山市住吉町1-5-8 TEL. (076) 424-1755 FAX. (076) 423-8899